

編集・発行:福岡大学附属大濠高等学校新聞部

福岡市中央区六本松1-12-1

印刷:株式会社ハザマ印刷



2面 特集 直木賞受賞 佐藤究さん

3面 特集 イグ・ノーベル賞 股のぞき効果

4~8面 特集 体育祭・文化祭中止

9面 卒業生特集 建築家 齊藤康平先輩

10~12面 報道 バスケ部、柔道部など

誰が為の晴天 (平和台陸上競技場)

展望台

英単語が書かれたカードに、意味に合ったイラストを描き、音読しながら体育館を走り回る。一見滑稽な光景だが、これはニュージードの語学学校で行われていた授業の様子である。私は中学生の頃、自分の英語力を鍛えようと、ニュージードへ語学留学に行った。英単語カードにはイラストのほか、簡単な英語で意味を書き込んだ。体を動かしながら覚えたり、つたない英語でも自分なりに工夫して語意を

表現したりすることで、感覚的に覚えやすく、日本語に変換しなくても英語そのまま理解できるようになっていった▼本紙に掲載されている股のぞき効果のように、人間の認識や思考は身体の向きを少し変えるだけで大きく変わる。また、フランス文学者の内田樹は「脳も臓器の一つであるから、思考も身体でありその二つを分けて考えるべきではない」と述べている。座って頭だけを使うよりも、身体を動かして、イラストや文章で表現しながら、新しいことを身につけ

ていくべきなのかもしれない。ニュージードの授業は、日本のそれに比べて座っている時間が明らかに少なかった。テストはなく、授業で前回習った単語や熟語を使い、漫画や物語を作って発表していた▼自分の目的とは直接関係ないようなことでも、とにかく取り組んでみることに大切だ。一般に効率が良くいわれている方法が、自分に効果のあるものだとはいえない。突拍子もない方法や人よりも時間のかかる方法が、目的への近道になることもある。

(原)

直木賞・山本周五郎賞 W 受賞

『テスカトリポカ』

作家 佐藤究 を知る人々

本校の卒業生である作家の佐藤究さん（平成七年卒）が『テスカトリポカ』で第165回直木賞と第34回山本周五郎賞を受賞した。佐藤さん本人には取材できなかつたため、親友である飯田信也さんと、高校三年時に担任を務めた井上栄治先生に話を聞いた。
（小川、徳永、岡）



直木賞作家の親友

佐藤さんと飯田さんは実家が近所にあり、小学校から高校まで同じ学校に通った親友である。

飯田さんは『テスカトリポカ』について「さつちゃん（佐藤さん）の感性がよく表れている、一番やりたいことをしている作品だ」と話した。肉体を駆使した戦闘の描写には、佐藤さんが昔から筋トレをして体を鍛えていたことが活かされている。陰惨な描写には、佐藤さんが読んでいた水木しげるの戦争漫画に通じるものを感じたという。「さつちゃんには、ダークなものを見えないようにするのではなく、露わにして見せることで良くないことを学ぶべきだ」という思いがある。陽の世界だけでは心がもたない。そ

ジュンク堂書店福岡店では、佐藤さんの受賞に際して特設コーナーを設けた。佐藤さんが直木賞を受賞した直後は『テスカトリポカ』の売り上げが以前の五倍近くまで上がったという。ジュンク堂書店福岡店で文芸書を担当する松岡千恵さんは佐藤さんの作品について「海外文学のミニアが領くような描写が多く、そのような作品を普段から読んでいる人にとっては特に面白いだ



太宰府市吹で指揮者を務める飯田さん

れを作品を通して伝えたいのではないかと話した。佐藤さんとの思い出を聞くと「中学生のとき、シャーロック・ホームズが好きで、オリジナルの続編を書いて突然渡してきた。原稿用紙数十枚に及び、さつちゃんが好きなプロセスについての話もからめて書かれていてとても面白かった」と懐かしんだ。

盛り上がりは 地元書店でも

ろう」と分析した。また「地元作家が文学賞を受賞すると、読者が自分の知っている風景の描写を探しながら本を読むというケースがあり、購買につながるやすい。書店員として嬉しい」と喜びの声をあげた。松岡さんは大濠生に向けて「コロナ禍で思うように友達と過ごすことができない人もいると思うが、本を通して多くの人に出会ってほしい」とメッセージを送った。

作家の道を 究めてほしい

井上先生から見てあまり社会的なタイプではなかったらしい。



佐藤さんについて語る井上先生

最後に「さつちゃんは音楽や映画など様々な芸術に興味がある中、自分の思いを伝えるツールとして小説を選んだ。自分の魂で小説を書いていて、素直に尊敬している。今後も応援したい」と嬉しそうに話した。佐藤さんへの今後の期待を聞くと「彼は、ペンネームを何か変えているが、今の佐藤究という名前には『究』という字が入っている。名前の通りに作家の道を究めてほしい」と激励した。最後に、井上先生は大濠生に「高校生にはもつと外国文学を読んでほしい」とメッセージを送った。おすすめ作家はサマセット・モームだという。図書館にも蔵書があるので、是非読んでみてほしい。

冷凍食品製造・開発

ハちゃん堂

6 回卒 川邊義隆

みやま市本社工場

ベトナム ホーチミン工場

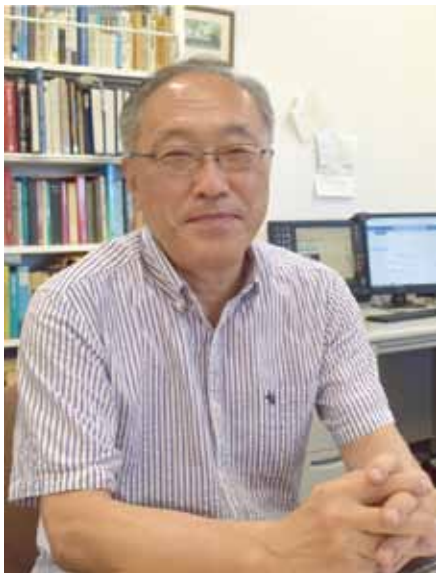
2016年イグ・ノーベル賞 股のぞき効果の世界

「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究」に与えられるイグ・ノーベル賞。福岡市科学館では、11月3日まで「イグ・ノーベル賞の世界展」が開催されている。2016年にイグ・ノーベル賞を受賞した立命館大学総合心理学部教授の東山篤規さんに話を聞いた。(瀬戸、小川)

物の見え方に 姿勢が関係

東山さんは立命館大学総合心理学部の教授で「触覚と痛み」と「空間知覚」をテーマに、人間の感覚・知覚に関する研究を行っている。そのうちのひとつである「股のぞき効果」に関する研究が、2016年にイグ・ノーベル賞を受賞した。

東山さんが股のぞき効果について研究を始めた動機には、以前に東山さんが研



自身の研究を楽しそうに語る東山さん

がみになって股の間から物を見ると、遠くにあるものが接近して、手前のものが遠くにあるように見える効果だ。全体的に奥行きが少なくなり、景色が平らに見える。東山さんは、直立した状態と股のぞきをした状態で物の見え方がどのように変わるのかを調べる実験を行った。その実験から、股のぞきをしたときに、物がより小さく、より近くに見えることが分かった。また、視覚を反転させるプリズム眼鏡を付けて同じ実験を行うと、股のぞきをした状態でのみ錯視が起こった。この結果から股のぞき効果の原因は、視界が反転することではなく股のぞきの姿勢であることが分かった。

究していた「垂直・水平錯視」が関わっている。垂直・水平錯視とは、同じ長さの線を逆T字型に並べると、縦線の方が横線の四割長く見えるという錯覚だ。この錯視に関する研究の中で、体を横にして同じ図を見ると錯視がなくなり、縦線と横線が同じ長さに見えることが分かった。このことから東山さんは、物の見え方に姿勢が関係しているという仮説を立てた。そこで、股のぞきによる物の見え方の変化を研究するに至った。

東山さんは別の研究で、鏡に反射された世界を見たときの光景が、幾何学的な予想と異なることを明らかにした。鏡に映った像の認識は、前ページで特集した佐藤究さんの第二作目「Ank: a mirroring ape」で重要な要素になっている。この作品では、鏡に写った自分を自分だと認識できるか否かが、サ

人類の進化と視覚？

視覚は生物にとって非常に重要な能力である。今後、視覚に関する研究によって思いがけないことが解明されるかもしれない。



佐藤究『Ank』

「役に立つ」研究が 全てではない

イグ・ノーベル賞の受賞について「最初に受賞の連絡が来たときは冗談だと思った。世の中自分の論文を読んでもくれる人がいることに驚いた」と話した。東山さんは「股のぞき効果の研究は役に立たない」と語った。ただし、昨今役に立つ研究ばかりが重要視されていることについて「研究が役に立つかどうかは大事ではない。『研究』を『人間』に置き換えてみると、その思想がいかに危険なのかが分かる」と意見を述べた。



股のぞきをする東山さん

医療法人
富山内科胃腸科クリニック

〒810-0024
福岡市中央区桜坂1-3-31
(地下鉄七隈線「桜坂駅」より徒歩1分)

TEL & FAX
092-761-7453

院長 **富山 定宗**

ラーメン・うどん・お3
居酒屋

麺ずぱっ!

麺と酒
Noodle & Liquor

福岡市中央区桜坂1-3-31
TEL: 11-45-3300
(092-761-7453)

体育祭・文化祭中止 大濠生の思いをつなげる

福岡県に発令された緊急事態宣言が9月末まで延長されたことを受けて、本校では9月9日に開催予定だった体育祭、11日に開催予定だった文化祭が中止された。この中止に際して、ブロック長、生徒会役員などに、率直な思いを聞いた。この状況の中でも、これからに向けて努力している人がいる。その思いを絶やすことなく、今後の開催につなげていくことが大切だ。

体育祭ブロック長の心境

質問内容 ①体育祭中止を受けて、率直な心境

②ブロック団長に立候補した理由

③ブロック団員への思い ④大濠生に一言

赤ブロック長 竹井美紗希さん(三年)

① 去年中止になってしまったので、今年は必ずやりたいと思っていた。ブロック団としての準備を進めていたので、悲しい。

② 中学生のときにもブロック長を務めて、やりがいを感じた。高校でもブロック長をやりたいと思い、立候補した。

③ ブロック団員全員が集まる機会は少なかったが、アトラクション(応援合戦)で行う

ダンスのメンバーとは一緒に練習してきた。時間を割いて練習に付き合ってもらったので申し訳ない。それでも、団員たちと仲を深めることができたので、私は練習してきたことを後悔していない。

④ 今年もコロナ禍で多くの行事が中止になってしまった。来年は今年よりもたくさん行事が開催できることを祈っている。

青ブロック長 永嶋昂さん(三年)

① 練習をして、積み上げてきたものが何も出せずに終わってしまった。悔しさが多く残っている。

② 行事の中止により、沈んでいたみんな

な心を少しでも前向きにしたいと思いたい。立候補した。

③ 体育祭を通して、ブロック団の楽しさを教えたかった。団員の後輩たちに素敵な思い出をつくらせてあげたい。思いも叶わず申し訳ない。体育祭自体はなくなってしまうが、一つの目標に向かって頑張った仲間とうし、経験してきたことは忘れな

いでほしい。

④ これからの人生で、体育祭よりも楽しいことはたくさんあると思う。体育祭中止を嘆くのではなく、今を最高に楽しんでほしい。

山下怜桜さん(三年)

① 団員たちが必死に準備をしてきた姿を見てきたため、やるせない気持ちだ。しかし、仕方ない状況なのでただただ残念だ。

② 過去に、ブロック団のアトラクションで体育祭に参加したことがある。そのときの経験が立候補につながった。和気あいあいとした応援を見て、そんな思い出を振り返ることができ、ブロック団に憧れて立候補した。

③ 団員が時間をかけて一生懸命努力をしたことを、披露する機会がなくなり、心苦しい。それに報いるために



山下さん(上)と高嶋さん

も、団員への引き継ぎとして、今年の活動記録を残したい。

④ 様々な行事が中止になる状況はこの先何年も続いていくだろう。行事が中止になつたとしても、続けてきたものは無駄にならない。だから、諦めずに取り組んでほしい。

黒ブロック長 高嶋昌幸さん(三年)

① 状況を考えると、開催が難しいことは理解できるが、二年間体育祭を行えなかったことは遺憾である。

② 全員の記憶に残るような体育祭にしたいと思いついて、中学生の頃から憧れていたブロック長に立候補した。

③ 団員が、積極的に活動した姿を思い出すと、申し訳ない気持ちでいっぱいだ。

④ ほとんどの生徒が体育祭を経験していない状況だ。そのため、来年は体育祭の活動への取り組みに消極的な姿勢になるかもしれない。それでも、大濠生全員で体育祭を作り上げてほしい。霜上、瀬戸、渡邊(翔)

生徒会役員 コロナ禍での模索

生徒会は、体育祭と文化祭の中止をどう受け止めているのか。体育祭実行委員長を務めた山根千遥さん(二年)は「今まで頑張ってきたが、中止となつてしまい残念だ。体育祭は昨年もなかったから、来年のことを考えると開催したかった。ブロック団や準備に協力してくれた人たちに申し訳ない」と思いを語った。また、文化祭実行委員長の原田彩乃子さん(二年)は「文化祭は昨年開催されたので、中止になるとは考えていなかった。今まで頑張ってきたことが無駄になってしまい、とても悔しかった」と胸の内を述べた。

文化祭の代わり10月15日から23日に文化発表会を開き、文化部の展示を行った。文化部の活動の成果を発表する機会を設けるためだ。来年に向けて山根さんは「世の中の状況がどうなっているかは分からないが、できる限り開催できるように準備をしたい」と話し、原田さんは「コロナ禍二年目となるが、コロナとうまく付き合いつながり開催できるように準備を進め、来年は盛り上げることができるようにしたい」と語った。(矢島、友山)



取材に応じた原田さん(左)と山根さん

こだわりが詰まったポスター

行事に向けて制作されたポスターは私たちに、テーマを明示してイベントを象徴するものだ。体育祭ポスターを描いた柴田紗希さん(二年)と、文化祭ポスターを描いた富永滯さん(一年)に取材した。体育祭のポスターを制作した柴田さんは「大濠の体育祭とテーマの『燎』に合うようなポスターにしよう」と思い、とにかく力強い印象を出そうとした。葛飾北斎の波の絵を模写するのが難しかった。線を下書きしても、繊細な波を再現できないと思いつき、絵の具で一発勝負で描いた」と述べた。



文化祭ポスター 体育祭ポスター

文化祭ポスターを制作した富永さんは「今回の文化祭のテーマである『黎明』から日本の文明開化を連想した。浮世絵をモチーフにして校舎と朝日を描いた。浮世絵感を出すために線を細かく描くことが大変だった。フォントにもこだわり和を表現した」と話した。(大野、瀬戸、徳永)

音楽は青春

バンド「Mameshiba」のリーダーの江川亨齊さん(三年)にバンドに懸ける想いを取材した。Mameshibaは今年の文化祭のバンド長だった。

江川さんは「高校生にとって、音楽は青春そのものだ。高校生活での人生、恋愛、友人関係の失敗を、他人や自分の力では解決できないときに心の底から救い、支えになってくれるのは間違いない。音楽である。高校生に向けた歌詞を音に乗せて届ける。そこには決して大人では届けることができない、何

か心に響く大切なメッセージが込められている。高校生が作る音楽に少しでも耳を傾けてほしい。皆さんには音楽の持つ偉大な力に触れてほしい」と力強く語った。



バンドのTシャツを着る江川さん

少期から音楽に興味を持ち、独学でギターを始め、高校一年生のときMameshibaを結成したが、コロナ禍でこの二年間一度も観客の前で演奏する機会がなかった。江川さんたちは、文化祭バンド企画の代替イベントとして来年の2月後半にMameshiba主催のライブ

企画を考えている。来年の文化祭では、全生徒がバンド企画未経験者である。後輩に向けて音楽は届ける側も受け取る側も楽しむことができる。今後のバンド企画では、音楽は楽しいということを今まで以上に伝えてほしい」とメッセージを送った。(大野、徳永)

KIMURA
木村カバン店
カバンならお任せを！
気楽にご来店ください！
福岡市中央区天神 2-9-114 tel 092-741-2429

福岡大学附属
大濠中学校保護者会
生徒の皆さんを陰から支えます
〒810-0044 福岡市中央区1丁目12番1号
TEL: 092-712-5828 FAX: 092-712-0988

美術工芸品調製専門店
足立商会 有限会社
代表取締役 足立 隆 (19回卒)
福岡市博多区上呉服町13番32-1
〒812-0036 TEL: FAX (092) 283-2855

文化部・同好会・委員会 文化祭中止を受けて

模型部

文化祭では「電飾」というテーマで作品を展示する予定だった。部長の山悠太郎さん(三年)は「今までの集大成を披露しよう」と意気込んでいたが、中止は大変悔しい」と語った。今後の活動について聞くと「今年はコロナで大会が中止となったので来年に向けて多くの人に感動してもらえようという作品作りに動してみたい」と意気込んだ。(江藤)

歴史文化部

歴史文化部は文化祭で、勾玉作りの体験をする企画を予定していた。部長の佐藤和佳奈さん(二年)は「勾玉作りは毎年人気の企画なので、実現できなくて残念だ。来年は今年できなかった分、より良いものを目指して企画を作りたい」と話した。コロナ禍で歴史文化部は現在活動ができていないという。(岡)

化学部

化学部は中央ステージで、近年披露していなかった、液体窒素を用いた派手な実験を行う予定だった。部長の小柴翔さん(三年)は「化学部の普段の活動は目立ちにくい。文化祭は文化部の存在意義だと思う。中止になってしまい残念に思っていたが、コロナ禍だから仕方ないという気持ち強い」と語った。(徳永)



台本の読み合わせを行う演劇部

華道部

華道部は文化祭で、フラワーアレンジメントと生け花の展示を予定していた。文化祭が中止になったことについて、部長の佐藤和佳奈さん(二年)は「文化祭に向けて部員全員で準備を進めていたのが残念だった。しかし、感染予防が優先されるべきだと思うので仕方ないと思う」と話した。(小野)

演劇部

文化祭では、アリーナで劇の上演を行う予定だった。部長の武田佳恋さん(二年)は「文化祭のために様々な準備をしてきたのに残念な気持ちはあるが、仕方ないと思っている」と語った。武田さんは今後の目標について「10月にある市大会を勝ち上がり、県大会に出場するのが目標だ」と話した。(瀬戸)

弁論部

弁論部は今年初のオンラインによる弁論大会を開催した。カメラがあり聴衆が少ないため、視線をどこに置けばいいのかなど、とても悩んだそうだ。県大会に出場予定の部長の櫻木花穂さん(二年)に今の目標について聞くと「県大会で2位以内に入り全国大会へ出場することだ。今は表現力を磨くことが課題だ」と語った。(山口)

写真部

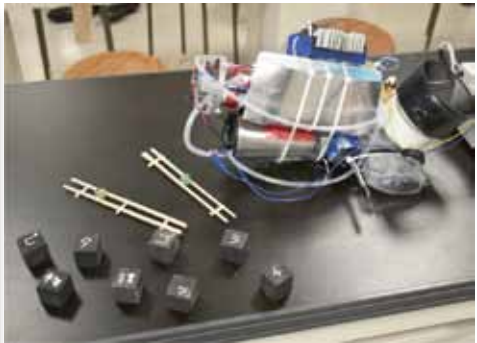
写真部は文化祭で、全国大会や県大会で入賞した作品など、部員が撮影した写真の展示を行う予定だった。部長の田島早希子さん(三年)は「文化祭は写真部の活動を披露する数少ない機会なのでなくなってしまうのは残念だ」と語った。また、今後について「後輩たちには次の大会でも入賞を狙ってほしい」と期待を寄せた。(小川)

文芸部

文化祭では、部誌の配布、難読漢字や百人一首の穴埋めなどの国語クイズを行う予定だった。部長の二宮翼さん(二年)は「中止になるとは思っていなかった。やるせない気持ちでいっぱい」と語った。また、大濠生に向けて「部員一同が精一杯作った作品を多くの人に読んでほしい」と話した。(瀬戸)

茶道部

茶道部は文化祭では飲食ができないため、季節ごとの和菓子の見本の展示を計画していた。部長の倉智美帆さん(二年)は「三年生との最後の活動ができなくなり残念だ」と語った。新型コロナウイルスの影響で普段通りの活動を行えないため、一回一回の部活を楽しく活動することが今の茶道部の目標だ。(川上)



物理部の制作した装置

吹奏楽部

吹奏楽部は文化祭で、冬の全国大会で行うマーチングを披露する予定だった。文化祭中止について部長の河島岳登さん(二年)は「緊急事態宣言下で満足に練習をすることができなかった。仕方がないと思う」と語った。また、今後の目標について「冬の全国大会で賞を獲得ことが目標だ」と意気込みを語った。(瀬戸)



真剣な眼差しで原稿を読む

常任図書委員会

文化祭では、ピリオオバトルと栗作り体験を行う予定だった。委員長の齊藤龍之介さん(三年)は「中止は仕方ないが、多くの人が一生懸命準備をしていたので、中止と聞いたときはショックだった」と語った。今後は図書新聞をより良いものに改良することや、ピリオオバトル全国大会出場を目標に活動していく。(山澤)

物理部

物理部では、文化祭に向けて机四角分ほどの巨大なピタゴラスイッチの制作、研究発表やミニピタゴラスイッチの制作体験も行う予定だった。部長の田中敬太郎さん(二年)は「文化祭を目標に活動していたので、中止を聞いてゴールが見えなくなった」と述べた。また、今後について「物理現象の謎を検証していきたい」と語った。(瀬戸)



マスクを付け練習を行う

放送委員会

放送委員会は文化祭でのラジオ企画に向け、流してほしい音楽についてのアンケートを実施していた。部長の田中富和子さん(二年)は「体育祭と文化祭の中止を受け、昨年からの行事が制限され、中止になっている。このままだと来年以降の活動が円滑にできるか分からない」と今後の活動に対する不安を漏らした。(大野)

天文部

天文部ではプラネタリウムの映写機の制作や天体写真の撮影を行っていた。部長の佐々木理帆さん(三年)は「日々の活動や準備してきたことが発表できなくなってしまうのが残念に思う」と述べた。今後はよりレベルの高いプラネタリウムの制作と天体観測、天体写真の撮影を行っていく予定だ。(江藤)

合唱同好会

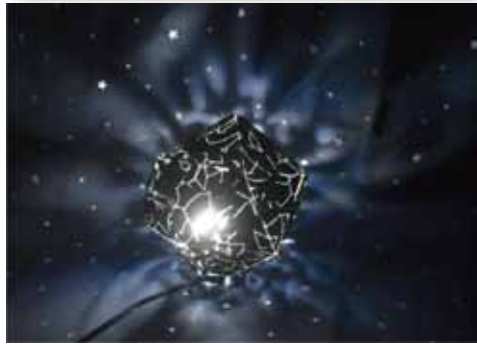
合唱同好会は文化祭の企画で、合唱コンサートを予定していた。文化祭が中止となったことについて、部長の三木万里菜さん(二年)は「校外の方々に聴いてもらう機会がなくなり残念だったが、止むを得ないと思う」と話した。来年の文化祭について聞くと「たくさんの観客の前で歌いたい」と胸の内を語った。(小野)

応援指導部

応援指導部は大会で行う演技を文化祭で披露する予定だった。部長の稲富真太郎さん(二年)は中止を受けて「他の部活に比べて大会の空間が長く学校で披露する機会も少ないので、文化祭に懸ける思いが強かった。それだけに虚無感に襲われた」と語った。現在は12月と7月にあるJAPAN CUPで成績を残すため練習をしている。(瀬戸)

囲碁部・将棋部

囲碁部と将棋部は、文化祭にあたって合同で囲碁や将棋が楽しめる休憩所を設置する予定だった。囲碁部部長の小寺夏海さん(二年)は「中止が決まってショックだった。囲碁に触れてもらえる機会が少ないので悲しく思う」と語った。また来年の文化祭に向けて「沢山の人が囲碁や将棋を知ってもらえる企画を行いたい」と話した。(岡)



天文部の作成したプラネタリウム

大濠中・高の学生服・ボタンダウン・シャツはお任せください!
男子も女子もOK

有限会社 山下商店
代表取締役 山下倫生 (H3卒) 取締役 山下矩生 (S33卒)
企業ユニフォーム製造・販売 (作業服・事務服・白衣)

お問い合わせは
092-291-1178
福岡市博多区上呉服町 12-230

大濠高校生をバックアップする!

株式会社 福岡大学サービス
Fukuoka University Service

●大濠中・高等学校購買部 ●保険相談コーナー(福岡大学バスターミナル内)

文具・学校指定品・教科書・その他
※学校生活の必需品をお得に取り揃えております。
TEL 092-406-4026

学生総合保険・自転車保険・その他各種保険
※専門スタッフが丁寧にアドバイスいたします。
TEL 092-862-0019



力強く書き上げる

書道部

書道部は文化祭の企画で、作品展示と書道パフォーマンスを行う予定だった。文化祭の中止について、部長の丸尾菜純さん(二年)は「文化祭のために準備してきたので、発表できなかつたことは残念だった」と述べた。来年の文化祭の抱負を聞くと「観客の前でパフォーマンスをしたい」と語った。

(小野)

インターネット同好会

インターネット同好会は文化祭の企画で、手作りエコーちわを作ることを用意していた。部長の岩田真奈さん(二年)は文化祭が中止になったことについて「部長になってから初めての文化祭で張り切っていたので悲しい。だが、先生方が生徒の安全を考慮し決めたことなので、仕方がないと思う」と語った。

(小野)



制作を行う電気部

電気部

電気部は文化祭に向けて部員が制作した電子工作の展示の準備を行っていた。部長の原田悟志さん(二年)は「電気部は参加する大会があまりなく、部活動の成果を発表する機会が少ないので文化祭がなくなって残念だ」と語った。また、今後の目標について「自由に活動し、多くの技術や免許を取得したい」と話した。

(小川)

かるた競技部

かるた競技部は文化祭で競技かるた体験を企画していた。部長の緒方康生さん(二年)は「競技かるたの面白さを知ってもらいたいという意図で企画していたので、その機会がなくなつたのは残念だ」と述べた。現在かるた競技部は、来年の夏にある団体戦の出場と大会での昇段を目標に日々練習に励んでいる。

(川上)

コンピューター同好会

コンピューター同好会ではパソコンの組み立て方の説明会や、体験会をする予定だった。部長の手嶋誉也さん(二年)は「準備を重ねていたので中止は誠に遺憾である」と語った。また、今後の目標について「我々の活動やパソコンに興味を持つ人を確保していきたいと考えている。部員を増やし存在感のある部にしたい」と語った。

(江藤)



作品に真摯に向き合う

美術部

美術部では部員が制作した作品の展示と、来客の似顔絵を描く企画を行う予定だった。部長の高山優花さん(二年)は「作品を見てもらえる唯一の機会だったので、喪失感を覚えている」と話した。また、今後の活動について「現在は活動をするのが難しいが、今後は来年の全国大会に向けて準備していくつもりだ」と語った。

(江藤)

生物部

生物部は文化祭で、飼育している生き物の展示や生き物クイズ、昆虫食についての展示を行う予定だった。部長の野村弥生さん(三年)は「コロナ禍で部活動が制限され思うように活動できない中、文化祭での発表を目標に頑張ってきたので、文化祭がなくなつたことに対するショックは大きかつた」と話した。

(徳永)

英語研究部

英語研究部は文化祭で洋画を上映する予定だった。現在は定期的な活動ができていないそうだ。部長の安海恭人さん(二年)は文化祭中止に対して「非常に残念だが、あまり準備に費やせる時間もなかつたので、充実したものにはできなかったと思う」と話した。また、来年の文化祭に向けては「楽しく活動をしたい」と語った。

(岡)

新聞部

新聞部は文化祭でこれまでに発行した大濠新聞の展示と、速報紙FLASHの発行を行う予定だった。文化祭が中止になったことについて部長の小川成さん(二年)は「FLASHを発行することで、文化祭をより盛り上げたかった」と語った。また今後の活動について「無事に新聞を発行することが何よりの目標だ」と話した。

(山田)

30年たったら一眨眼どう！福岡大学附属大濠高等学校同窓会

福大大濠高校第69回大同窓会

- ・日程 令和4年5月21日(土)
- ・会場 グランドハイアット福岡(博多区住吉1-2-82)
- 《実行委員会：第39回卒生一同》

同窓会には地域・職域支部もあります

- 関東、東海、関西、糟屋、筑紫、久留米つつじ会、福岡市役所鶴友会、福岡大学医学部
- ◎懇親会や母校クラブの応援等を行っています。

会長 浅田 雅宏(20回卒)
 事務局 福岡市中央区六本松1-12-1
 TEL 092-714-1681
 E-mail info@ohsa.jp
 HP http://www.ohsa.jp



齊藤康平さん

プロフィール

株式会社 SAITO 副社長
 箱崎商店街連合会 副会長
 一般社団法人福岡 SDGs 協会 理事

大学を卒業して複数のデザイン会社に勤務した後に父の建築事務所を継いで兄弟で経営している

場所をつくる

齊藤さんは設計や建築だけでなく、造った後の場所の活用も手がけている。そのきっかけとなった仕事は、日本デザインナー学院九州校の建て替えである。齊藤さんは、校舎の中央を吹き抜けにするなど様々な工夫により、コミュニケーションを生み

出す仕掛けを施した。建物が完成した後はイベントの企画も依頼され、無料公開講座「P.L.S.H.A.T.T.O」を始めた。その講座は、デザインと社会の関係を結びつける主旨で月に一回行われ、齊藤さんはプログラムの設定や講師の人選などを行っていた。齊藤さんは「公開講座の場で地域の人たちの交流が深まり、つながりが生まれる。そのつながりによってアイデアがプロジェクト

トとなって動き出している」と楽しそうに語った。公開講座を契機として、日本デザインナー学院にソーシヤルデザイン学科が新設された。齊藤さんの兄はその講師も務めている。この仕事をきっかけとして、建築だけでなく幅広い活動を行っていくために「斎藤政雄建築事務所」から「株式会社 SAITO」に会社を変えた。その後、地元箱崎の盛り上げたいという思いから、商店街の仕事にも携わるようになった。箱崎商店街の「ムメイジユク」は、取り壊されて駐車場となる予定だった元居酒屋

卒業生特集 <第43回>

ハコと場をつくる建築家

今回は、建築やまちづくりを手がけている齊藤康平さん(50回卒)を特集する。齊藤さんの高校生時代のことや地域に対する思い、そして今の仕事の内容を聞いた。(中田、川上、山口、山田)

トとなって動き出している」と楽しそうに語った。公開講座を契機として、日本デザインナー学院にソーシヤルデザイン学科が新設された。齊藤さんの兄はその講師も務めている。この仕事をきっかけとして、建築だけでなく幅広い活動を行っていくために「斎藤政雄建築事務所」から「株式会社 SAITO」に会社を変えた。その後、地元箱崎の盛り上げたいという思いから、商店街の仕事にも携わるようになった。箱崎商店街の「ムメイジユク」は、取り壊されて駐車場となる予定だった元居酒屋

受験生へ 落ちない鈴

福岡市西区にある太郎丸神社には「落ちない鈴」と呼ばれている鈴がある。太郎丸神社は平成28年に不審火により、本殿と拝殿が全焼した。しかしその際に拝殿に吊り下げられていた鈴は、焼けたものの落ちることなく残っていた。その後、神社は氏子さんたちと共に齊藤さんの手により修復され、鈴も社殿に飾られている。また、地元の氏子さんと九大生が毎週土曜日の午前9時に鈴を磨



落ちない鈴のモニュメント

く作業を行っている。その鈴は落ちないという点から、受験生にとつて縁起の良い鈴として注目されている。合格祈願のお守りは正月三が日と、毎月1日と15日の午後一時から二時の間買うことができる。

高校生活の思い出

高校生活で特に思い出に残っていることを聞くと、まず入学式を挙げた。「20クラスの男が学ランで並んでいる姿は迫力があつた」と、今とは違う大濠を語った。文化祭ではDJグループを結成して発表したり、手作りの衣装でファッションショーを開催したりした。文化祭

の建物を改装して作った交流の場である。ムメイジユクは商店街の事務所やシェアオフィス、博多曲物のショールームなどに利用されている。齊藤さんは建築とまちづくりを通して、箱崎の個性と歴史をつなげていきたいと考えている。



ムメイジユクの様子

大濠生に対して「自分の世界を広げるために色々な所に行つてほしい。そして色々な人と会つて人とつながつてほしい。つながれば人種や宗教など関係なく、同じ人として感じる事ができる」とメッセージを送った。

医療法人 脳神経外科

クリニック 高木

脳ドック
機能訓練室あり、MRI撮影対応

理事長 高木 忠博 (43年卒)

福岡市早良区弥生1丁目4番8号
☎092-844-1211

校内食堂

すずらん

昨日も、今日も、明日も、
おいしさを提供して大濠生とともに

バスケットボール部 インターハイ3位

本校バスケットボール部は、8月に長野県で開催されたインターハイにて3位という成績を収めた。

初戦の相手である県立能代科学技術(秋田)を93対75、二回戦の県立津工業(三重)を104対69、続く三回戦の東海大学附属諏訪(長野)を91対65で破り、順調に勝ち進んだ。

準決勝での中部大学第一(愛知)との試合では、本校の針間大知さん(三年)が1Qだけで10得点という活躍を見せた。しかし、試合は69対83で敗れてしまった。アンダー19日本代表に選



次回の試合に向けて、片峯先生は主に下半身の強化を、強豪校の福岡第一に勝利して県予選、インターハイ、インターカッブへと駒を進めたいと熱く述べた。(矢島、友山、渡邊翔)

ばれた岩下准平さん(三年)と川島悠翔さん(一年)は、大会には途中からの参加となった。針間さんは「岩下と川島がいなかったときは、二人がいなかったら、そでるプレーがあった。他の部員もアシストしてくれた」と試合を振り返った。

顧問の片峯先生は試合について「優勝に向けて練習をしてきたが3位という結果になってしまい悔しい。満足いく結果ではなかった。しかし、チームの持てる力は大会中に発揮することができ、新たな学びも得ることができた」と話した。

かるた競技部 全国個人B級優勝

本校かるた競技部は7月23日から25日に近江神宮などで行われた全国選手権大会に出場した。一木俊佑さん(三年)が個人戦B級で優勝し、A級四段に昇級・昇段した。

また、8月4日から6日に開催された和歌山総文祭で

は、競技の部に一木さんと太田黒遥さん(三年)が福岡県代表団に選抜され出場し、松本亜依さん(三年)は読手コンカールの部で全国6位に表彰された。

一木さんは「二年生の頃にオーソドックスな攻めの戦い方から、久米原名人を模倣した守りの戦い方に変えた。札の置き方も右中心に置くことになり、自分に合った戦いができた」と振り返った。太田黒さんは「今回の敗戦を次に活かしていきたい」と話した。



大分県代表に奮闘する一木さん(手前左)

読手は主に発音や音程が評価される。松本さんは「二年生の頃から読みの練習をしてきた。著名な方に教えてもらい、上達できた」と話した。(北川)

美術部 木下さんと和歌山総文祭出場

本校美術部の木下幹九郎さん(三年)は昨年の県大会で推薦を獲得して、和歌山



元気いっぱい総文祭へ。誇りや季節感、食事のあり方を表現した。梅干し

総文祭に出場した。推薦を受けたのは「季節を食す」という作品で、アクリル絵の具を使用したし、富士山や梅を連想させるモチーフが描かれている。木下さんは「日本人としての美術系の大学の受験に向けて絵を描き続けている。」

柔道部インターハイ個人 桑原悠吾さん ベスト16 松永烈さん 3位

8月8日から12日、長野県で行われた北信越総体2021インターハイにおいて、本校柔道部の桑原悠吾さん(三年)が100kg級でベスト16、松永烈さん(二年)が60kg級で3位という成績を収めた。

桑原さんは三回戦で今大会優勝者を相手に技ありを進め、一本を取られて惜しくも敗れた。桑原さんは「技ありを取ったが、負けたのは実力が不足していたからだ。大学でも柔道を続け、次こそは勝ちたい」と力強く語った。

松永さんは一回戦で優勝候補を下し、勢いに乗って勝ち進んだ。準決勝は接戦となり、延長に入ってから松永さんが指導二本目を受けて僅差で負けた。松永さんは「もう少しで勝てたが、粘り強さの面で負けた。次は勝利を掴みたい」とリベンジを誓った。松永



桑原さん(左)と松永さん

さんは12月に全日本ジュニア選手権に出場する。

顧問の福先生は「部内に体重の重い選手が多い中、軽量の松永が活躍することと他の部員が刺激を受けている。皆が力をつけて団体戦で勝つことが目標だ」と熱く語った。(矢島、友山)

剣道部 金井田晃生さん インターハイ個人戦出場

本校剣道部の金井田晃生さん(三年)は、8月に開催されたインターハイの個人戦に出場した。

初戦は広島皆実(広島)の生徒と対戦。金井田さんがメンで一本を先取るが、金井田さんの二回の反則により相手に一本が入る。互いにあと一本を取れば勝利という状態で延長に突入し、最終的に金井田さんのメンにより初戦突破を果たした。二回戦は不戦勝。続く三回戦は札幌日本大学(北海道)の生徒と対戦。延

長の末メンを取られ、惜しくも敗れた。

金井田さんは「観客がいた九州大会や県大会とは違い、無観客の雰囲気は初めてだった」と今大会を振り返った。今後



インターハイ出場の金井田さん

分を追い込めるかが重要だと思ふ。やらされるのではなく、自分から何かを得ようとする気持ちで練習する」と語った。(渡邊翔)

吹奏楽部 総文祭と部内演奏会

本校吹奏楽部は和歌山総文祭に出場し、グッドパレード賞とマーチングで実行委員会特別賞を受賞した。部長の上妻結衣さん(三年)は「総文祭は楽しむことを意識して臨んだ。久々に遠征できて嬉しかった」と語った。

また、定例の部内演奏会を8月12日に行った。上妻さんは「今年こそは大勢の人の前で演奏したかった。それでもライブ配信という形で多くの人に視聴してもらえて良かった」と話した。最後に「コロナ禍で



部内演奏会での迫力のある演奏

様々なイベントが中止になったことは残念だったが、その分今年にしかない良さもあった。大濠でマーチングができて良かった」と部活動を振り返った。(江藤、瀬戸)

部説 我々が今すべき行動

新型コロナウイルスの「全国大会の醍醐味」と余波は、学校行事や部活動など我々の身近な生活にまで及んでいる。私も8月4日から6日に和歌山県で行われた全国高等学校総合文化祭に参加した。先輩方が作ってくれたチャンスを生かそうと意気込んでいた。しかし、私の全国大会は全く予想していなかった形で幕を閉じた。大会二日目の夕方、本校から参加していた部員が新型コロナウイルスの濃厚接触者になったのだ(後日陰性と判明)。大会事務局と引率の先生方が話し合った結果、本校から参加している者全員がすぐさま帰郷することになった。先輩が

困難を伴っていたのだろう。感染リスクがある中、高校生に、部活動の成果を表現できる機会を設けようと多くの人が尽力してくれたに違いない。大会事務局の方々が下した判断に対して、視野の狭い考えを抱いていた自分を恥じた。

我々高校生の活動が制限されることは辛い。多くの人が新型コロナウイルスで苦しんでいる今の状況の中で不満を垂れるべきではないと思う。全力を尽くしたくても尽くせないコロナ禍から早く抜け出すために、一人ひとりが感染を広めないような行動を心がけるべきだ。(小川)

精神科・内科
油山病院
ストレス・うつのご相談/リワーク(復職支援)
〒814-0171 福岡市早良区野芥5丁目6番37号 TEL 092-871-2261(代)
医療法人 浪江堂 理事長 三野原 義光 (S56年卒)

您好!朋友
ニイハオ ポンユウ
〒810-0044
福岡市中央区六本松2丁目7-7 河津ビル1F
TEL092-(731)8458

幸雄会 **古原医院**
理事長 古原 雅樹 (第17期卒)
更生医療指定医
MAIL info@kohara-clinic.com
TEL 092-431-5622
〒812-0014 福岡市博多区比恵町18-1

内科 小児科
循環器内科 アレルギー科
人工透析内科

リボリ Rivoli
Since 1956
福岡市中央区鳥飼2丁目1-1
大濠公園前交差点角
コモンホールでのパンの袋のゴミは専用のゴミ箱へ

四コマ漫画 by さくらんぼ



写真部 田中里奈さん 和歌山総文祭出場



本校写真部の田中里奈さん(三年)は昨年12月に福岡県総文祭写真展で大賞を受賞した。それにより、今年8月1日から5日にかけて和歌山総文祭写真部

他校からの参加者と交流した(後列中央) 直す良い機会になった。今回学んだことを活かして、今後の自分の作品の幅を広げていきたい」と振り返った。顧問の小尾先生は「全国から集まったレベルの高い写真家の卵と交流することで良い刺激になったと思う」と語った。(小川)

水泳部 九州大会個人戦出場

本校水泳部の松本航輝さん(三年)と岡本悠花さん(一年)は、7月17日から19日に行われた第69回全九州高等学校水泳競技大会に出場した。松本さんは100m平泳ぎで決勝に進出し、1分05秒49で第9位となった。岡本さんは100m平泳ぎ1分18秒41で第18位の成績を収めた。松本さんは「最後の大会だと思って懸命に泳ぎ、いい記録が出た」と語った。また、後輩に向けて「どんな結果でも諦めずに最後までやるのが大切だ」とエールを送った。岡本さんは「ベストタイムが出せず、多くの

改善点が見つかった。また、速い人たちと会っていい刺激になり、得るものがあった。今後は自己ベストを更新するために、日々努力を続けていきたいと述べた。(中田)



岡本さん(左)と松本さん

軟式野球部 福岡県大会準優勝

本校軟式野球部は7月17日から22日に行われた第66回全国高等学校軟式野球選手権福岡県大会で準優勝した。初戦は折尾愛真に6対1で勝利。準決勝では朝倉東に7対2で勝利し、決勝戦進出を果たした。決勝戦では筑陽学園と対決した。両チーム譲らず0対0で迎えた8回表に筑陽学園に1点を入れられ、1対0で惜敗した。この試合を元部長の山本岳斗さん(三年)は「各々が



県大会での様子

陸上部 リレー、ハードル 県大会入賞

本校陸上部は福岡県新人大会で、400mハードルに出場した舂井天徳さん(一年)が8位、1600mリレーで出場した稲富裕太さん(二年)、廣田春人さん(二年)、井上龍之将さん(二年)、竹島秀隼さん(二年)の四名が5位という成績を収めた。廣田さんは「今回の結果には決して



競技場の裏で練習を行う

満足していない。目標の九州大会に出場できなかったのは正直悔しかった」と語った。また、今後の目標について「課題点である個々のスピードを改善し、インターハイ出場を果たしたい」と意気込んだ。(瀬戸)

編集後記

今号は部活動に制限のかかる中での発行となりました。厳しい状況の中で、予定していた16面から12面に変更する苦渋の決断を行いました▼発行にあたってSNSを駆使した取材や、家にパソコンを持ち帰っての作業などの工夫を行いました。部活が終わり、家に帰ってもパソコンで作業をする日々も今となつては良い思い出です▼また、今号では多くの生徒の方々に取材を受けていただきました。ご協力いただいた方々には感謝の気持ちでいっぱいです▼今年も我々の青春は奪われることとなりました。コロナ禍が収束することを願うとともに、新聞部として何ができるのかを考えていきたいと思えます。(瀬戸)